

Ānandagarbha の神秘体系

杉木恒彦

瑜伽階梯のタントラを代表する学匠 Ānandagarbha (以下, Ā) に帰される多数のテキスト群に関する総括的な研究は未だ初期の段階にあると言わねばならない。それらテキスト群は、ある特定のタントラの注釈書と儀軌の二種類に大きく分類することができる。本稿では、特に後者の儀軌所説の曼荼羅の成就法に着眼し、それらを比較・整理すると共に、更にそこに見られるある思想的傾向——特にいわゆる「真実撰経 (以下, ST)」と「清浄タントラ (*Sarvadurgatipariśodhanatejorājasya tathāgatasya arhato samyaksambuddhasya kalpa*, Toh. 483/Ota. 116, 二種類の「悪趣清浄タントラ」のうち成立の早い方, 以下 DP)」の関連付けに関する考え方を、分類の前者即ちタントラの注釈書群も参照しつつ明らかにしたい。

上記の類の儀軌としては、*Vajrasattvasādhanoṣṭāyikā* (Toh. 2518/Ota. 3341, 以下, VS)・*Vajrasattvodayanāmasādhanoṣṭāyikā* (Toh. 2517/Ota. 3340, 以下, VUS)・*Vajradhātumahāmaṇḍaloṣṭāyikāsarvavajrodaya* (Toh. 2516/Ota. 3339, 密教聖典研究会校訂梵本・和訳, 以下, SVU)・*Śrītrailokyavijayamaṇḍaloṣṭāyikāyatattvasaṅgrahataniroddhṛtā* (Toh. 2519/Ota. 3342, 以下, TVU)・*Prajñāpāramitāmaṇḍaloṣṭāyikā* (Toh. 2644/Ota. 3461, 以下, PMU)・*Śrīsarvadurgariśodhanamaṇḍaloṣṭāyikā* (Toh. 2631/Ota. 3458, 以下, DPK)・*Sarvadurgatipariśodhanamaṇḍaloṣṭāyikā* (Toh. 2635/Ota. 3460, 以下, DPV)・*Sarvadurgatipariśodhanamahāmaṇḍaloṣṭāyikā* (Toh. 2630/Ota. 3457, 以下, DPS) がある¹⁾。VS・VUS は金剛薩埵の, SVU は金剛界大曼荼羅の, TVU は降三世大曼荼羅の, PMU は般若波羅蜜多曼荼羅の, DPK・DPS は普明曼荼羅の, DPV は九仏頂曼荼羅の成就法である。VS・VUS 以外の上記の諸成就法には「三三摩地」の分類解釈が施されている。

全体の次第構成に着目した時に、上記の諸成就法は大まかな構成はどれも似通っているが、更に詳細に見れば、[A]: VS・VUS・SVU・TVU・PMU・DPK / [B]: DPK・DPV・DPS の二グループに分類することがである。DPK は二つのグループの要素を持っている。

[A] グループでまとめる理由は以上の如くである。VS・VUS は印言よりして ST 系儀軌であるに、VS は VUS の略本であり、また VUS は印言及び文章の大部分が SVU によく一致する。SVU・TVU も印言と曼荼羅よりして共に ST 系儀軌であり、また TVU はそのモデルである ST 降三世品には欠けている第一瑜伽三摩地²⁾と羯磨王最勝三摩地の記述³⁾が特に SVU と類似する。また、(印言の省略の多い) PMU は羯磨王最勝三摩地の記述⁴⁾が(如来名を般若波羅蜜多としてはいるが)特に SVU とよく一致する。DPK は曼荼羅からすれば DP 系の成就法だが、第一瑜伽三摩地⁵⁾全体が SVU にかなり類似し、また羯磨王最勝三摩地では SVU 同様に諸尊の功德事業が記されている⁶⁾(他の成就法には記されていない)。また、SVU・TVU・DPK は大瑜伽を説く。このグループは構成上の類似から互いに何等かの関係があると考えられるが、以上の特徴よりこれら諸成就法は特に SVU との深い関係が想定できる。なおこのことは、SVU は全体の記述が充実しているのに対してそれ以外の成就法は時に印言・観想の詳細を省略して例えば「五相成身観」等の観想の項目名のみを説いて済ます場合があることから想定できる。

[B] グループでまとめる理由は以下の如くである。DPK・DPV・DPS は全て曼荼羅・印言が DP 系のものである(既に述べたように DPK は ST のものも採用している)。また、特に DPV と DPS は曼荼羅以外は全体的に構成がかなり一致しており、また、DPV は Buddhaguhya に帰せられる *Sarvadurgatipariśodhanamanḍalavidhikrama* (Toh. 2636/Ota. 3461) と同曼荼羅を説き、また構成も類似しており、それらの間の関係、あるいは DP を儀軌構成する際の何等かの一般的なルールに従って DPV と DPS が構成されたことが想定できる。

以上は次第構成の形式面に着目した分類だが、その内容面に着目しても [A] [B]二グループにはやはり違いが見られる。[B]グループのものは、仮に本稿では「光明による諸事業(自心臓の月輪に悪趣清淨根本マントラや諸尊の根本マントラを布置し、それより発せらる光明の広・敏によって、悪趣を清め、有情を心臓の月輪に鈎召し灌頂を与えて清浄にする観想)」と呼ぶ観察を主要なモチーフとしている。DP に関するもので Ā に帰される *ṭikā* (Toh. 2628/Ota. 3455) は、この観想を「内心の曼荼羅 (*nañ sems kyi dkyil ḥkor*)」の観想と呼び、DP 全体の文段分けの際に三摩地と並んで採用して重視している。そして、成就法構成上では、[A] グループの成就法中で五相成身観の際の加持現証や羯磨王最勝三摩地の際の智薩埵達の遍入といった、ST に重要な大毘盧遮那如来遍入の観想を行う箇所に関しては、

[B] グループでは「光明による諸事業」を割り当てて工夫しているという相違が見られる。なお、二グループに属する DPK は第一瑜伽三摩地ではいわゆる加持現証を採用し、羯磨王最勝三摩地では「光明による諸事業」を採用している。

ところで [A] グループのものは大部分が ST 系であり、そうでないものも ST に基づく SVU と (既に述べたように) 特に密接な関係を有している。[B] グループは DP 系である。このことと今までの分析により、Ā 成就法群における、ST と DP の諸要素を結合させよとする試みが特に DPK において見られる。

更に、儀軌ではなくタントラの注釈書においても、Ā 著作群には ST と DP を互いに関連させよとする試みが同様に見られる。例えば、Ā に帰される ST の *vyākhyā* (Toh. 2510/Ota. 3333) は、タントラの撰義として ST のタントラ名に即しつつ因・果・勝義の真実性となり般若・方便波羅蜜多にも撰せらる10の真実を述べるが⁷⁾、DP の *ṭikā* においても、タントラの撰義として ST のタントラ名に即したこれと全く同内容のものを当てている⁸⁾。

以上より、Ā に帰されるテキスト群には、ST と DP を結合させる試みが観察されることが理解できる。ところで後代ネパールで作成されたもう一つの「悪趣清浄タントラ」であるいわゆる「九仏頂タントラ」では、ST 系と DP 系の Ā 造儀軌間の交渉が見られる⁹⁾が、ST と DP 間自体の交渉は Ā テキスト郡の中に既に明白に意図されていたものであると言える。

1) 他には極めて短編の *Māricidevisādhana* (Toh. 3661/Ota. 4484) がある。

2) Toh, 67b¹-77b⁷/Ota, 76a⁶-88a¹.

3) Toh, 81b⁴-6/Ota, 93a⁷-b².

4) 特に, Toh, 250a⁶-b²/Ota, 267a⁶-b¹.

5) Toh, 125a¹-134b⁴/Ota, 148a¹-159a⁵.

6) Toh, 138a⁸-b⁵/Ota, 163b⁵-164a⁵.

7) Toh, 26b⁷-27b¹/Ota, 31b⁴-32a⁵.

8) Toh, 8a⁷-b⁷/Ota, 9b³-10a⁴.

9) 乾仁志「仏説大乘観想曼拏羅淨諸悪趣経について」『印度学仏教学研究』37-2 1989, p. 829-834. を参照。

〈キーワード〉 Ānandagarbha, 儀軌, 「真実撰経」, 「悪趣清浄タントラ」

(東京大学大学院)